

# 保莉実さんの遺作「ラディカル・オーラル・ヒストリー」

大野 俊

キャンベラのオーストラリア国立大学 (ANU) には、世界各国の留学生や研究者が集まっています。今回、著作を紹介する保莉実さんもその一人でした。ニューサウスウェールズ大学 (UNSW) を経て、1999 年から ANU 太平洋アジア研究所歴史学科に在籍していました。2001 年に博士号を授与された彼の論文は、ノーザン・テリトリーのアボリジニのムラに通算 2 年近く住みこんで調査した研究の集大成です。

その英語論文をベースにした日本語の著書「ラディカル・オーラル・ヒストリー：オーストラリア先住民アボリジニの歴史実践」が昨年 9 月、御茶の水書房から出版されました。保莉さんは最初の単著を手にする事なく、その 4 カ月前、メルボルンのホスピスで亡くなりました。9 カ月間、ガンと闘った末の 32 歳の死でした。闘病生活中も執筆を続け、亡くなる 5 日前に脱稿したのが上記の書です。偉業としか言いようがありません。

学術的とはいえ、文体は彼の人柄そのままにユーモラスで、わかりやすい本です。そこに描かれるアボリジニの歴史観は、私たちの常識や既成概念を打ち破るものが少なくありません。ケネディ米大統領が彼らのムラにやってきたとか、キャプテン・クック以前にアボリジニの前に現れたイギリス人は猿の末裔だったとか。このような言説は従来、神話や民話、あるいは与太話扱いされ、歴史研究の対象として余りまともに取り上げられませんでした。

保莉さんの独創性は、それもアボリジニの「歴史実践」と捉え、こうした歴史観が語り継がれる由来や彼らの世界観を、実証済みの史実も踏まえて分析したことです。それは、白人を中心とする過去あまたのアボリジニ研究に対する非白人研究者の異議申し立てであり、果敢な挑戦だった、と私は思います。生前多くを学んだアボリジニの長老から「大地がおまえをここに呼んだ」と言われた彼は、大地の求めに応じてそこに魂を預けたのでしょうか。

本書は日本の論壇で反響を呼び、全国紙や週刊誌など数多くの書評欄で取り上げられました。また、彼の遺志を引き継ぐ「保莉実記念奨学基金」が ANU と UNSW に設けられました。ANU の方は、アボリジニ研究者の調査資金にあてられ、UNSW の方は国際理解と異文化交流を実践の学生に授与されます。

本書の出版・翻訳を支援した CJC 会員の塩原良和・シドニー大学客員研究員が、この本を定価の 2 割引(送料など込みで 32 ドル)で CJC 会員にお分けします。ご希望の方は、塩原さん ([shiobarayoshikazu@hotmail.com](mailto:shiobarayoshikazu@hotmail.com)) または CJC 会長のアームストロングゆかりさん ([yukali\\_armstrong@hotmail.com](mailto:yukali_armstrong@hotmail.com) 電話 6251-1340) にご連絡を。保莉さんの業績、奨学基金、新聞連載記事などを紹介するサイト (<http://www.hokariminoru.org>) もぜひご一読下さい。

(終)